

ROS 講習資料

文責 小林照

2021/10

1. まえがき

ロボットを動かす上で ROS の知識は欠かせないものだ。しかし、初心者にとって ROS のコマンドラインインターフェースは理解しにくい上、覚えにくい。そこで、わかりにくい ROS の概要を明文化して少しでも ROS を習得できる人が増えることを期待して、この資料を作成した。筆者は ROS および Linux への理解が深いわけではない上、急ぎ作成したものであるため、誤っている点や煩雑な点などがあるかもしれないが、ご了承願いたい。

2. ROS とは

Robot Operating System の略。ロボットを制御するためのオープンソースソフトウェアであり、本サークルではソフト班に所属する人は、このソフトウェアを使用することになる。基本的にはターミナルからコマンドを打ち込んで使用する。

3. ROS のディレクトリ構成

ROS を使用する環境であるディレクトリ構成について説明する。図 1 のディレクトリ構成図を見ながら読み進めてほしい。

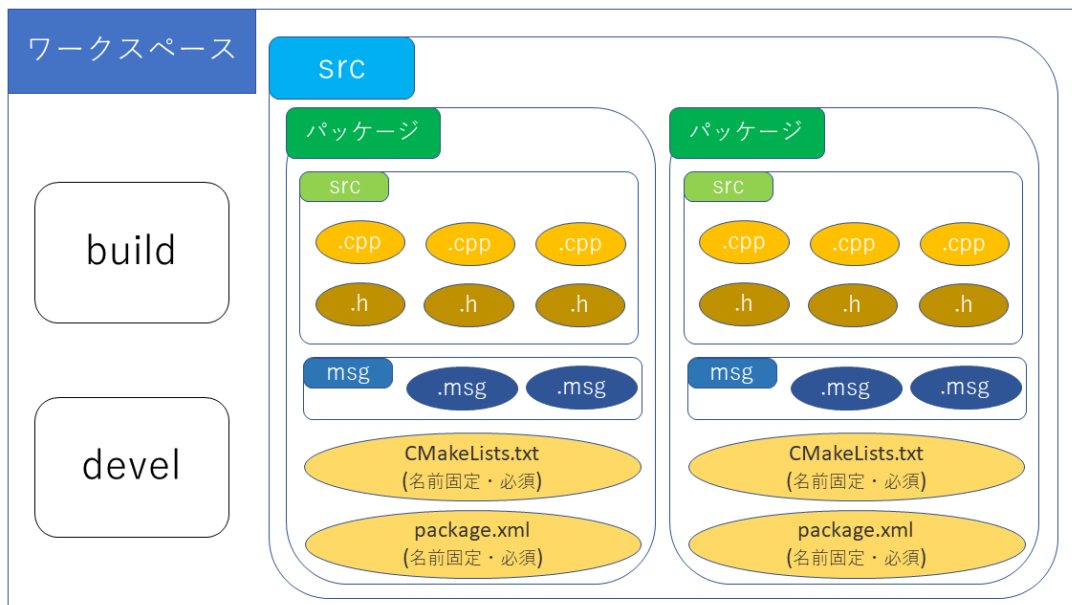


図 1 ROS のディレクトリ構成図

3.1 ワークスペース

ROS 関係のファイル全てが置かれたディレクトリ。名前は任意である。ワークスペースの中には build や devel, src などのディレクトリが存在する。src の中に各パッケージ(後述)を入れる。(この資料では build や devel にはこれ以上触れない。)

3.2 パッケージ

目的に沿ったノードやメッセージなどが入ったディレクトリ。中には src ディレクトリや CMakeLists.txt(名前固定・必須) や package.xml(名前固定・必須)などが存在する。src には.cpp や.h といったノード(後述)のソースコードが置かれる。CMakeLists.txt はビルド(コンパイル)時に読み込まれるファイルで、コンパイル条件などを記述する。package.xml にはパッケージに必須の情報を記述する。パッケージ名はディレクトリ名ではなく、package.xml 中の name タグによって決められている。一般的にはパッケージ単位で開発を行う。

4. ROS のグラフ概念

ROS を理解する上で重要なグラフ概念について説明する。図 2 のグラフ概念図を見ながら読み進めてほしい。

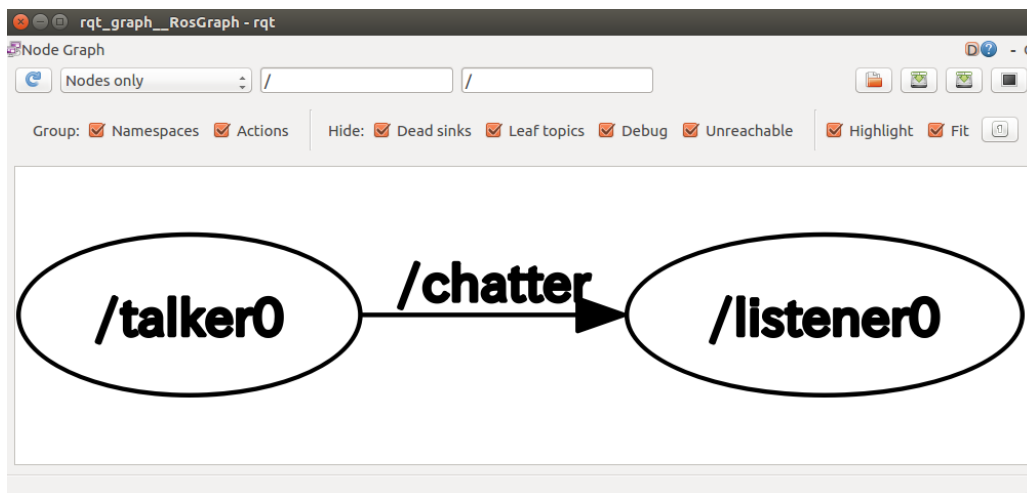


図 2 ROS のグラフ概念図

4.1 ノード

ROS パッケージ内の実行ファイルのことである。図 2 の”talker0”と”listener0”にあたる。ノードは他のノードと通信をして、情報のやりとりをする。ROS ではこのノード同士の通信によって、目的のシステムを構成していくことになる。一般的には Python や C++などのプログラミング言語を使って内容を記述する。

4.2 トピック

ノード同士がやりとりするデータのこと。図2の”chatter”にあたる。正確には異なるが、「ノード同士の通信の名前」と捉えるとプログラムが書きやすいかもしれない。トピックを送ることを Publish といい、送る側のノードを Publisher という。また、トピックを受け取ることを Subscribe といい、受け取る側のノードを Subscriber という。

4.3 メッセージ

トピックのデータ型のこと。Arduino や C 言語と同じように整数や浮動小数、配列などがある。カスタムメッセージをつくることで、自分で新たなメッセージ(型)を定義することもでき、整数や浮動小数などを複数もつメッセージなどを作成できる。

4.4 マスター

厳密にはグラフ概念に関する用語ではないが、後の説明を理解する上で役立つので、ここで解説しておく。マスターとは、ノードの名前の管理を行っているもののこと。ノード同士が通信をするためには、マスターが立ち上がっている必要がある。マスターを立ち上げるためのコマンドは roscore. (「5.5 ノードの実行」のところで再度でてくる。)

5. ROS の使用手順

5.1 ワークスペースの作成

ROS には、ワークスペースをつくるためのコマンドは存在しない。したがって、Linux のコマンドを使用して、ワークスペースとなるディレクトリを作成する。例えば、”catkin_ws”という名前のワークスペースを作成する場合、以下のコマンドを実行する。

```
-----  
mkdir -p catkin_ws/src  
-----
```

mkdir はディレクトリを作成するためのコマンドで、-p をつけることで複数階層のディレクトリを1度に作成できる。今回の場合、catkin_ws の中にさらに src を作成した。

また、その後に以下のコマンドを実行して、エラーが出ずにビルドできることを確認してみよう。

```
-----  
cd catkin_ws  
catkin build  
source devel/setup.bash
```

cd はディレクトリを移動するためのコマンドで、上記の例では catkin_ws の中に移動している。catkin build はビルドを行うためのコマンドで、ワークスペース内のプログラムやファイルの内容を ROS に解釈させる(読み込ませる)。プログラムの構文やファイルに誤りがある場合はエラーが出る。ワークスペース内のファイルに変更を加えた場合は、プログラムを実行する前に必ず catkin build を実行し、エラーが出ないことを確認する癖をつけよう。もしエラーが出た場合はまず source devel/setup.bash のコマンドを実行してみて、改善しないときはエラーコードで検索をかけるなどして調べるか、先輩に聞いてみよう。

5.2 パッケージの作成

ROS にはパッケージを作成するためのコマンドが用意されている。例えば、"beginner_tutorials"という名前のパッケージを作成する場合、cd コマンドでワークスペース内の src の中まで移動してから、以下のコマンドを実行する。

```
catkin_create_pkg beginner_tutorials std_msgs rospy roscpp
```

5.3 メッセージの作成

ここでは、オリジナルのメッセージファイル(カスタムメッセージ)を作成してみよう。cd コマンドで、5.2で作成したパッケージの中まで移動してから、以下のコマンドを実行する。

```
mkdir msg
echo "int64 num" > msg/Num.msg
```

mkdir コマンドで msg というディレクトリを作成している。次に echo コマンドで msg の中に Num.msg というメッセージファイルを作成すると同時に、Num.msg に"int64 num"という内容を書き込んでいる。"int64 num"とは 64bit 長の整数型の num という名前の変数を表している。つまり、Num.msg は上記の変数 num だけをもつメッセージということになる。

これから package.xml や CMakeLists.txt の中身を変更したり、プログラムを書いたりしていくが、この際必ず半角を使うこと。特に全角のスペースなどは入れないようにする。

メッセージファイル自体は作成できたが、次は作成したメッセージファイルをパッケージに認識させる必要がある。そこでパッケージ内にある package.xml を開いて図 3 の行があることを確認し、図 4 のようにコメントを解除した後、保存する。

```

<!-- The *depend tags are used to specify dependencies -->
<!-- Dependencies can be catkin packages or system dependencies -->
<!-- Examples: -->
<!-- Use depend as a shortcut for packages that are both build and exec dependencies -->
<!--   <depend>roscpp</depend> -->
<!--   Note that this is equivalent to the following: -->
<!--   <build_depend>roscpp</build_depend> -->
<!--   <exec_depend>roscpp</exec_depend> -->
<!-- Use build_depend for packages you need at compile time: -->
□ □ ➡ <!--   <build_depend>message_generation</build_depend> -->
<!-- Use build_export_depend for packages you need in order to build against this package: -->
<!--   <build_export_depend>message_generation</build_export_depend> -->
<!-- Use buildtool_depend for build tool packages: -->
<!--   <buildtool_depend>catkin</buildtool_depend> -->
<!-- Use exec_depend for packages you need at runtime: -->
□ □ ➡ <!--   <exec_depend>message_runtime</exec_depend> -->
<!-- Use test_depend for packages you need only for testing: -->
<!--   <test_depend>gtest</test_depend> -->
<!-- Use doc_depend for packages you need only for building documentation: -->
<!--   <doc_depend>doxygen</doc_depend> -->
<buildtool_depend>catkin</buildtool_depend>
<build_depend>roscpp</build_depend>
<build_depend>roscpp</build_depend>
<build_depend>std_msgs</build_depend>
<build_export_depend>roscpp</build_export_depend>
<build_export_depend>rospy</build_export_depend>
<build_export_depend>std_msgs</build_export_depend>
<exec_depend>roscpp</exec_depend>
<exec_depend>rospy</exec_depend>
<exec_depend>std_msgs</exec_depend>

```

図 3 メッセージ作成時の package.xml 変更前



```

<!-- The *depend tags are used to specify dependencies -->
<!-- Dependencies can be catkin packages or system dependencies -->
<!-- Examples: -->
<!-- Use depend as a shortcut for packages that are both build and exec dependencies -->
<!--   <depend>roscpp</depend> -->
<!--   Note that this is equivalent to the following: -->
<!--   <build_depend>roscpp</build_depend> -->
<!--   <exec_depend>roscpp</exec_depend> -->
<!-- Use build_depend for packages you need at compile time: -->
□ □ ➡ <!--   <build_depend>message_generation</build_depend> -->
<!-- Use build_export_depend for packages you need in order to build against this package: -->
<!--   <build_export_depend>message_generation</build_export_depend> -->
<!-- Use buildtool_depend for build tool packages: -->
<!--   <buildtool_depend>catkin</buildtool_depend> -->
<!-- Use exec_depend for packages you need at runtime: -->
□ □ ➡ <!--   <exec_depend>message_runtime</exec_depend> -->
<!-- Use test_depend for packages you need only for testing: -->
<!--   <test_depend>gtest</test_depend> -->
<!-- Use doc_depend for packages you need only for building documentation: -->
<!--   <doc_depend>doxygen</doc_depend> -->
<buildtool_depend>catkin</buildtool_depend>
<build_depend>roscpp</build_depend>
<build_depend>rospy</build_depend>
<build_depend>std_msgs</build_depend>
<build_export_depend>roscpp</build_export_depend>
<build_export_depend>rospy</build_export_depend>
<build_export_depend>std_msgs</build_export_depend>
<exec_depend>roscpp</exec_depend>
<exec_depend>rospy</exec_depend>
<exec_depend>std_msgs</exec_depend>

```

図 4 メッセージ作成時の package.xml 変更後

次に CMakeLists.txt を開いて図 5 の行を探し、図 6 のように変更した後、保存する。

```

## Find catkin macros and libraries
## if COMPONENTS list like find_package(catkin REQUIRED COMPONENTS xyz)
## is used, also find other catkin packages
find_package(catkin REQUIRED COMPONENTS
  roscpp
  rospy
  std_msgs
)

## System dependencies are found with CMake's conventions
# find_package(Boost REQUIRED COMPONENTS system)

## Generate messages in the 'msg' folder
# add_message_files(
#   FILES
#   Message1.msg
#   Message2.msg
# )

## Generate services in the 'srv' folder
# add_service_files(
#   FILES
#   Service1.srv
#   Service2.srv
# )

## Generate actions in the 'action' folder
# add_action_files(
#   FILES
#   Action1.action
#   Action2.action
# )

## Generate added messages and services with any dependencies listed here
# generate_messages(
#   DEPENDENCIES
#   std_msgs
# )

```

図 5 メッセージ作成時の CMakeLists.txt の変更前



```

## Find catkin macros and libraries
## if COMPONENTS list like find_package(catkin REQUIRED COMPONENTS xyz)
## is used, also find other catkin packages
find_package(catkin REQUIRED COMPONENTS
  roscpp
  rospy
  std_msgs
  message_generation
)

## System dependencies are found with CMake's conventions
# find_package(Boost REQUIRED COMPONENTS system)

## Generate messages in the 'msg' folder
add_message_files(
  FILES
  Num.msg
)

## Generate services in the 'srv' folder
# add_service_files(
#   FILES
#   Service1.srv
#   Service2.srv
# )

## Generate actions in the 'action' folder
# add_action_files(
#   FILES
#   Action1.action
#   Action2.action
# )

## Generate added messages and services with any dependencies listed here
generate_messages(
  DEPENDENCIES
  std_msgs
)

```

図 6 メッセージ作成時の CMakeLists.txt 変更後

5.4 ノードの作成

今回は図 2 のように，Publisher と Subscriber を一つずつ作って通信させてみる．

まず，cd コマンドでパッケージ内の src に移動した後，以下のコマンドを実行して Publisher と Subscriber の.cpp ファイルを作成しておく．（ノードは Python で書くこともできるが，ここでは C++で書くものとして説明する．）

```
-----  
touch talker.cpp  
touch listener.cpp  
-----
```

touch はファイル作成を行うコマンド．

この後，talker.cpp を Publisher，listener.cpp を Subscriber としてプログラムを書き込んでいく．

5.4.1 Publisher ノードの作成

```
#include "ros/ros.h"  
#include "std_msgs/String.h"  
  
#include <sstream>  
  
int main(int argc, char **argv) {  
  
    ros::init(argc, argv, "talker");  
  
    ros::NodeHandle n;  
  
    ros::Publisher chatter_pub = n.advertise<std_msgs::String>("chatter", 1000);  
  
    ros::Rate loop_rate(10);  
  
    int count = 0;  
    while (ros::ok()) {  
        std_msgs::String msg;  
  
        std::stringstream ss;  
        ss << "hello world " << count;
```

```

    msg.data = ss.str();

    ROS_INFO("%s", msg.data.c_str());

    chatter_pub.publish(msg);

    ros::spinOnce();

    loop_rate.sleep();
    ++count;
}
return 0;
}

```

上記のプログラムを `talker.cpp` に書き込み、保存する。

以下はソースコードの解説。

```
#include "ros/ros.h"
```

`ros/ros.h` は ROS のノードを書くときに、使用するヘッダファイル。ROS のノードを書くときはとりあえず、このヘッダファイルを `include` する。

```
#include "std_msgs/String.h"
```

`std_msgs` は、既存で用意されたメッセージファイルがあるディレクトリのこと。 `String.h` で、文字列を通信できる既存のメッセージファイル `String.msg` を読み込んでいる。

```
ros::init(argc, argv, "talker");
```

ROS の初期化を行っている。また第 3 引数にノード名を渡す。マスターは、このノード名によって各ノードを区別しているため、名前が他のノードと被ってはいけない。

```
ros::NodeHandle n;
```

ノードハンドル `n` を宣言している。この資料で扱うコードでは、`Publish`、`Subscribe` に関する情報をマスターに伝えるコードを書くために必要。(ノードハンドルについては筆者もこれ以上のことは理解していません。ごめんなさい `m(__)m`)

```
ros::Publisher chatter_pub = n.advertise<std_msgs::String>("chatter", 1000);
```

「`chatter_pub` という名前の `Publisher` は、`chatter` というトピックに、メッセージファイルとして `std_msgs` 中の `String.msg` を使って、メッセージを送る」という内容をマスターに伝えるためのコード。非常に複雑であるため、以下に構文を示す。

`ros::Publisher Publisher の名前 = ノードハンドル名.advertise<メッセージファイル名>("トピック名", 1000);`

第 2 引数の 1000 は、捨てずにとっておける情報量を表すが、基本的にはこの値は 1000 にしておけばよい。(少なくとも筆者は 1000 以外にしたことはない。)

```
ros::Rate loop_rate(10);
```


下の while 文のループ間隔が、1 秒間に 10 回になるように設定している。

```
while (ros::ok()) {
```

この while 文は ROS が起動している間、ループし続ける。

```
std_msgs::String msg;
```

```
std::stringstream ss;
```

String メッセージを扱う変数 msg と、文字列を扱う変数 ss を宣言している。(stringstream は、sstream を include した際に使える C++ のクラスで、ROS のクラスではない。)

```
ss << "hello world " << count;
```

```
msg.data = ss.str();
```

"hello world " という文字列と、count の値の文字列をつなげた文字列を ss に代入し、さらにそれを msg.data に代入している。通常、std_msgs に用意されたメッセージのデータには、.data をつけることでアクセスできる。なお、「5.3 メッセージの作成」のところで作成した Num.msg のデータにアクセスするには、.num をつける。(ss.str() は、ss に格納された文字列を取り出している。stringstream の変数は、= だけでは代入できないことに注意。)

```
ROS_INFO("%s", msg.data.c_str());
```

ROS_INFO は、printf とほぼ同様のはたらきをする関数。(ただし、msg.data 中のデータ型は stringstream なので、.c_str() をつける必要がある。)

```
chatter_pub.publish(msg);
```

ここで、実際に Publish を行っている。

```
ros::spinOnce();
```

コールバック関数を呼び出しているが、このコードにおいては、あってもなくても影響はない。詳しくは「5.4.2 Subscriber の作成」にて。

```
loop_rate.sleep();
```

ros::Rate loop_rate で指定した時間でループできるように、残った時間待機する。

5.4.2 Subscriber の作成

```
#include "ros/ros.h"
```

```
#include "std_msgs/String.h"
```

```
void chatterCallback(const std_msgs::String::ConstPtr& msg) {  
    ROS_INFO("I heard: [%s]", msg->data.c_str());  
}
```

```
int main(int argc, char **argv) {
```

```
ros::init(argc, argv, "listener");

ros::NodeHandle n;

ros::Subscriber sub = n.subscribe("chatter", 1000, chatterCallback);

ros::spin();

return 0;
}
```

上記のプログラムを listener.cpp に書き込み、保存する。

以下、ソースコードの解説。なお、「5.4.1 Publisher ノードの作成」と重複する箇所は省略する。

```
void chatterCallback(const std_msgs::String::ConstPtr& msg) {
```

これは、トピックに新しいメッセージが届くと呼び出される関数で、このような関数を一般にコールバック関数という。引数の与え方が複雑であるため、以下に構文を示す。

```
void コールバック関数名(const メッセージファイル名& メッセージ変数名) {
```

なお、メッセージ変数名はコールバック関数内でのみ使用される変数で、自由に定義できる。(今回 Subscribe するデータ型が stringstream であるため、メッセージファイル名の後ろに ConstPtr をつけることでデータ型の調整を行っている。)

```
ros::Subscriber sub = n.subscribe("chatter", 1000, chatterCallback);
```

「sub という名前の Subscriber は、chatter というトピックからメッセージを受け取り、その後に chatterCallback という関数を実行する。」という内容をマスターに伝えるためのコード。非常に複雑であるため、以下に構文を示す。

```
ros::Subscriber Subscriber の名前 = ノードハンドル名.subscribe(“トピック名”, 1000, コールバック関数名);
```

第 2 引数の 1000 は、捨てずにとっておける情報量を表すが、基本的にはこの値は 1000 にしておけばよい。(少なくとも筆者は 1000 以外にしたことはない。)

```
ros::spin();
```

ここで、トピックにメッセージが届いているかを確認して、もし届いていたら適切なコールバック関数を呼び出す、ということをする。ros::spinOnce()との違いは、ros::spin()は ROS が起動している間、上記の処理をし続けるが、ros::spinOnce()は、一度だけ上記の処理をすることである。

次に CMakeLists.txt を開き，末尾に以下を追加して，保存する．

```
-----  
include_directories(include ${catkin_INCLUDE_DIRS})
```

```
add_executable(talker src/talker.cpp)  
target_link_libraries(talker ${catkin_LIBRARIES})
```

```
add_executable(listener src/listener.cpp)  
target_link_libraries(listener ${catkin_LIBRARIES})  
-----
```

最後にワークスペース内で，catkin build と source devel/setup.bash を実行する．

```
-----  
catkin build  
source devel/setup.bash  
-----
```

5.5 ノードの実行

まず，ターミナルを4つ立ち上げる．

1つ目のターミナルに以下のコマンドを実行する．

```
-----  
roscore  
-----
```

roscore は，マスターを立ち上げるコマンドで，roslaunch（後述）を実行するために必要．

2つ目のターミナルに以下のコマンドを実行する．

```
-----  
roslaunch beginner_tutorials talker  
-----
```

roslaunch はノードを立ち上げるためのコマンドで，Publisher である talker を立ち上げた．構文は，“roslaunch パッケージ名 ノード名”

3 回目のターミナルに以下のコマンドを実行する.

```
-----  
roslaunch beginner_tutorials listener
```

```
-----  
Subscriber である listener を立ち上げた.
```

4 回目に以下のコマンドを実行する.

```
-----  
roslaunch rqt_graph rqt_graph
```

```
-----  
以上 4 つのコマンドを実行した結果, 図 2 で示したのと同様のウィンドウが立ち上がれば,  
成功.
```